

1. ジェットウォッシャーの中にバーや超音波チップを入れるより、超音波洗浄器の方が汚れが取れますか？

→ハンドピースのバーや超音波チップは血液などのタンパク質や微細な汚れが付着していることが多いため、WD（ウォッシャーディスインフェクター）に入れるとしても、超音波洗浄器で洗浄を行なうことが望ましいです。

2. クレンジングローションのディスペンサーの衛生度はどんなものなのでしょうか？

→ディスペンサーの衛生度に関しては問題ないと考えています。もしディスペンサーが汚染されていたとしてもクレンジングローションと流水下で洗い流されます。ですが、定期的なディスペンサーの清掃は行うべきでしょう。

3. ジェットウォッシャーはエラーが多いと聞きました。日本人の使い方が雑だからですか？

→ジェットウォッシャーのエラーの頻度は各メーカーによって異なるかもしれません。ジェットウォッシャー自体が繊細な機械であることは間違いありませんが、ドイツではジェットウォッシャーの点検や整備に関して規定されています。日本でそれが行われているとはとても言い難いです。また日本では時間当たりの患者数も多いため、容量を超えて使用している場合もあります。そのためエラーが多いと言われているのかもしれませんが。

4. 手洗いの後の保湿ですが、手洗い→消毒→保湿の順で行った後、保湿クリームをつけた場合消毒効果が弱まらないでしょうか？保湿後の消毒の順番とどちらが効果的でしょうか？

→保湿で消毒の効果が弱まるということは基本的にはありません。保湿剤自体が汚染されている場合は、問題ですが、正しく保管されている保湿剤によって消毒の効果が弱まることはないと考えて良いでしょう。なので、手洗い・手指消毒・保湿の順番で問題ないと言えます。また気になる場合は保湿成分配合の製品を使うと良いかもしれません。その点デュールのクレンジングローションは良いと言えるでしょう。

5. 滅菌バッグは長期保存する器具に行う処理であると思っておりましたが、それは間違いでClass Bを保証するための処理なのでしょうか？

→滅菌バッグは長期保管するために器具を再汚染から守る、また器具の滅菌を確実・安全に行うため行います。ClassBを保証するために行うわけではありません。

6. 滅菌対応マークが超音波ハンドピースやコントラやタービンの根本に 132°Cや 134°C、135°Cのマークがあります。なぜ、バラバラな温度のマークがあるんですか？

→オートクレーブの種類やプログラムによって温度設定が異なる場合があるため、またそのハンドピースの耐熱試験を行った際の温度の条件なのかもしれません。メーカーに問い合わせしていただいた方がよろしいかもしれません。

7. DAC ユニバーサルはウォッシャー・ディスインフェクターの機能もあるということでしょうか？

→DAC はユニバーサルは冷水による注水回路の洗浄・注油・冷水と温水による洗浄・蒸気滅菌の役割を果たします。ですのでWDの機能+クラスS相当の滅菌をしていると考えられます。

8. クレンジングローションのサンプルはありますか？

→サンプル自体はおそらくないと思われませんが、普段利用されている販売店に相談されてみてはいかがでしょうか。

9. 手指衛生と手指消毒、手洗いの意味は一緒ですか？

→手指衛生は手指の衛生を行うこと全般を意味します。その中で、洗浄としての手洗い。消毒としての手指消毒。があります。

10. カニューレとは何ですか？

→カニューレとは日本語で排管を意味します。腔を要するもので、空気などを通すものの総称で使われることが多いです。医科では気管カニューレなど人体に使用されるものがあります。歯科ではバキュームとして唾液や血液など診療時に吸う器具の先端をカニューレと呼んでいます。

11. 新型コロナウイルス感染症のリスクが高い職業のことですが、実際に他の職業と比較して感染した割合も高いのでしょうか？

→あくまでこのリスク分析は人との接触頻度・距離、飛沫への暴露のしやすさからリスクが高いと判断されています。なので実際に新型コロナウイルス感染症に感染した割合が高いわけではありません。日本では現段階で歯科医療従事者の感染者として報告されている件数はそこまで多くないようです。それは他の職業の方と比べて感染に対する対策の意識がより高いためかもしれません。

12. ドイツで研修を受けるためには、どうしたら良いでしょうか？

→デュール製品を普段から使用している医院であれば、デュールデンタルジャパンに参加したい意向を伝えておけば参加可能かもしれません。しかし、今のコロナ禍では当分開催は厳しいかもしれませんが・・・